


1月3日 逍遙 

すず 猫一族の

こだわりを語る、のころ

「ウイズ コロナ」の時代は相変わらずのまま。人様の社会では、今ひとつ冴えない表情での新年の挨拶があちらこちらで交わされているようですが、ワタシ達・猫一族にとっても、別の意味で心穏やかならぬ2年目の始まり。何故なら、去年の干支「子(ネズミ)」と今年の「丑(ウシ)」は、猫一族にとっては、深い因縁のある年ですから。それは、そもそも日本の十二支の中に、何故ワタシ達「猫」が居ないのか、という事。(諸説あるようですが)

ワタシはやっぱり、昔、神様が動物達に「元旦に自分のところに挨拶に来た順に、12番目までを1年ずつ交代で大将にしよう」というお触れを出した際、ネズミが猫に「挨拶するのは1月2日だよ」と嘘をついた上に、自分は、朝早く出発した牛の背中に乗って神様のところに向かい、到着と同時に跳び降りてちゃっかり一番になった、だから十二支は「子」から始まり「丑」が2番目、しかも「猫」は十二支に入りそびれたのだ、と信じています。

だからワタシ達・猫一族は、ネズミに気付くとすぐ追いかけたくなるのです。

次回「人間 と 猫 それぞれの新年、のころ」

